

第15版

環境活動レポート



有限会社 荒武組

《 目 次 》

1. 事業概要	2
1) 事業者名及び代表者	2
2) 所在地	2
3) 環境管理責任者	2
4) 連絡先	2
5) 対象範囲	2
6) 事業規模	2
7) 推進組織図	2
2. 環境方針	3
3. 環境目標	4
4. 環境目標の実績	4
5. 環境活動計画及び取組結果とその評価	5
6. 次年度の目標と活動計画	6
7. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果 並びに違反、訴訟の有無	7
8. 代表者による全体の評価と見直し結果	7

1. 事業概要

1) 事業所名及び代表者名

有限会社 荒武組
代表取締役 荒武 泰隆

2) 所在地

本 社 〒889-3153 宮崎県 日南市 大字萩之嶺2046番地2
資材置場 〒889-3153 宮崎県 日南市 大字萩之嶺
重機置場 〒889-3153 宮崎県 日南市 大字塚田字鶴戸上甲399

3) 環境管理責任者

環境管理責任者 : 荒武 舞衣

4) 連絡先

連絡担当者 : 荒武 舞衣
TEL : 0987-27-1698
FAX : 0987-27-2338
E-mail: aratakegumi@lagoon.ocn.ne.jp

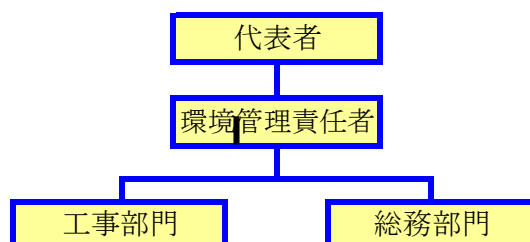
5) 対象範囲・・・(全組織・全活動)

- ・対象組織 : 本社、資材置場、重機置場
- ・対象活動 : 建設業(土木一式工事、とび・土工・コンクリート工事、舗装工事)
- ・対象期間 : 2023年5月1日～2024年4月30日
- ・レポート作成日 : 2024年7月31日

6) 事業規模

項目	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
工事件数	40	44	21	36	57	37	46	52
従業員数	25	21	16	13	13	12	12	12
床面積(m ²)	200	200	200	200	200	200	200	200
倉庫面積(m ²)	300	300	300	300	300	300	300	300
資材置場面積(m ²)	150	150	150	150	150	150	150	150

7) 推進組織図



2. 環境方針

経営理念

**社会貢献、社会奉仕を通し、社会の役に立つ
企業として、地域と一体化を目指すと共に、
社員にとって、働きやすい職場づくりに努めます。**

環 境 方 針

**私たちは、建設工事が与える環境負荷を把握し、
環境経営システムを構築して、省資源及びストッフ温暖化の
社員総ぐるみ運動を展開し、環境経営の継続的な改善に努め、
循環型社会形成に尽力して、持続可能な社会づくりに貢献します。**

行 動 指 針

1. 以下の事項を重点項目として、優先的に取り組みます。

- 1. 省エネルギーにより、二酸化炭素排出量の削減に努めます。**
- 2. 廃棄物の削減、及びリサイクル率向上に努めます。**
- 3. 節水により、水使用量の削減に努めます。**

2. 全ての法規制を遵守します。

3. 安全且つ効率的施工、及び環境に配慮した施工に努めます。

4. 地域貢献活動に積極的に参加します。

この環境方針は、当社全従業員に周知徹底します。

制定 2010年 4月12日

改定 2012年 5月 1日

改定 2020年 5月 1日

有限会社 荒 武 組
代表取締役 荒武 泰隆

3. 環境目標

取組み項目 (目標項目)(単位)	実施区	第五次中期目標			
		基準値 2018年5月～ 2021年4月の 実績平均値	2022年度 (2022年5月～ 2023年4月)	2023年度 (2023年5月～ 2024年4月)	2024年度 (2024年5月～ 2025年4月)
1. 二酸化炭素排出量の削減 (kg-CO ₂)	全社	198,778	196,790	194,802	192,814
省エネ (CO ₂ 削減)	①電気使用量の削減 (kWh)	事務所	13,127	12,995	12,864
		現場	8,817	8,641	8,553
	②ガソリン使用量の削減 (L)	事務所	5,318	5,212	5,159
		現場	8,817	8,641	8,553
		全体	14,135	13,853	13,711
	③軽油使用量の削減 (L)	現場	61,893	60,655	60,036
2 の 削減 廃棄物	①一般廃棄物の削減 (kg)	事務所	52.3	51.8	51.5
	②建設副産物再資源化率向上	現場	95%以上	95%以上	95%以上
3. 水資源使用量の削減 (m ³)	事務所		実績把握 (263.0)	22年度比0.5%削減 261.7	22年度比1.0%削減 260.1
4. 環境配慮型施工の推進	現場		環境活動計画の遵守を目標とします。		

* 建設副産物の再資源化率は(再利用＋再生利用＋熱回収)÷総排出量×100
* 環境配慮型施工の推進の目標は、当該事項の環境活動計画を順守することを目標としています。
* 水は社長宅と事務所と共用していたが、今年度からは事務所のみの使用となった為、2022年度は現状把握の期間とする。

4. 環境目標の実績

2023年5月1日から2024年4月30日までの予実績は以下の通りです。

取組み項目 (目標項目)(単位)		実施区	目標値	実績	達成率	評価
1. 二酸化炭素排出量の削減(kg-CO ₂)		全社	194,802	176,867	110.1%	○
	①電気使用量の削減(kWh)	事務所	12,864	11,535	111.5%	○
	②ガソリン使用量の削減(L)	事務所	5,212	5,744	90.7%	×
		現場	8,641	7,359	117.4%	○
		全社	13,853	13,103	105.7%	○
	③軽油使用量の削減(L)	現場	60,655	54,624	111.0%	○
2 の 削減 廃棄物	①. 一般廃棄物の削減(kg)	全社	51.8	62.3	83.1%	×
	②. 建設副産物のリサイクル率向上(%)	現場	95%以上	100% (75.2t)	105.3%	○
3. 水資源使用量の削減(m ³)		事務所	261.7	250.0	104.7%	○
4. 環境配慮型施工の推進		現場	環境活動計画の遵守	遵守しています	—	○

* 購入電力の二酸化炭素排出係数は九州電力の調整後排出係数0.480を使用しています。
* LPGを含めた全社の二酸化炭素排出量は、176,987.2kg-CO2です。

5. 環境活動計画、及び取組結果とその評価

取組項目	活動内容	活動状況	評価
・電気使用量の削減	①不在・不要箇所及び昼休み時は消灯する	第3四半期ころは暖房用のエアコン使用が増えて電気使用量が増加したが、夏場のエアコン使用を極力抑えた事や、不在時の消灯の徹底等を実施して節電を図り、年間目標達成率は111.5%の達成となった。	○
	②空調温度管理 (夏場のエアコン設定温度の適温化)		○
	③蛍光灯や反射板など照明器具を定期的に清掃する		○
化石燃料の削減 ・ガソリン ・軽油	①エコドライブ(アイドリングストップ、急発進・急加速及び空ぶかし防止等)を徹底する	遠方現場への移動等で現場のガソリン使用量が増加した時期もあったが、アイドリングストップの徹底、段取りの徹底、乗り合わせ通勤等で省エネに努めて、現場のガソリンは117.4%の達成となった。事務所は工事件数の増加に伴ってパトロール回数が増え、90.7%の目標オーバーとなった。又、軽油については、河川掘削工事や調整池造成工事等で大型重機や大型ダンプカーの使用が多かったが、フルアクセル抑制やこまめなエンジンストップ等で111.0%の目標達成となった。これからも省エネ活動を継続して実施する。	○
	②現場通勤はできるだけ相乗り通勤をしている		○
	③段取り良い前準備で忘れ物などをなくし、折り返し運行の撲滅を推進している		○
	④重機等の操作はできるだけフルパワー運転をしないようにしている(アクセル7割運動等)		○
	⑤重機類は始業前点検を実施する		○
	⑥創意工夫で工期短縮を図る		○
・一般廃棄物の削減	①資源物を再生利用できるように分別している(最終処分量の削減を目指す)	可能な限り、裏紙の使用の徹底など、特に事務所から排出される紙資源について削減を図っているが、事務所の片づけや旧社長宅を社宅とした事等で廃棄物がやや増加した。	○
	②コピーは裏紙使用や両面コピー、縮小コピーに努める		○
・建設副産物の再資源化率向上	①建設資材発注時は仕様書を再チェックして在庫の確認を行い、残余資材の発生を抑制する	建設副産物は、工事内容に大きく左右されますが、今期は道路改良工事などで発生するアスコン塊と建設発生木材のみで、全て再資源化出来た。又、出来るだけ再資源化の処理をする処理業者へ委託するようにしています。	○
	②廃棄物の処理はできるだけリサイクル業者へ依頼する		○
	③資材包装物は業者へ持ち帰りを依頼する。簡易包装のものを優先購入する		○
・水資源使用量の削減	①水道配管からの漏水を定期的に点検する(全蛇口を止めて水道メーターの動きを確認する)	昨年から旧社長宅を社宅とした為水使用量が増加したが、入寮社員へ節水の徹底をお願いして、今年度は104.7%の目標達成となった。	○
	②車両や建設機械の洗車は必要最小限にとどめ、できるだけ雨水を利用する		○
・環境配慮型施工の推進	①環境配慮型の建設機械を使用する (排ガス対策型、低騒音型、エコ操作型等)	各現場で環境影響を考慮して施工しますが、基本的には、騒音・振動・粉塵・濁水等の予防と創意工夫による工期短縮を図りながら施工しています。	○
	②自主的に騒音・振動・粉塵対策を講じて施工する		○
	③チェーンソー等の建設機械はできるだけ植物性オイルを使用する。		—

【評価基準】

○= それぞれの項目毎に100%(全員・全課所・全現場など)実施している、又は計画通りに進んでいると判断
△= やられている箇所、人、部署、現場などが約半数、又は時々実施しているなど
×= 20%程度しか実施されていないと判断したとき

6. 次年度の目標と活動計画

取組み項目		目標 2024年度	目標を達成するための具体的な活動内容
二酸化炭素 排出量の削減		192,814 kg-CO2	・省エネ・省資源活動の徹底
1・二 酸化 炭素 排出 量の 削減	①電気使用量 の削減	12,733 kWh(事務所)	①不在箇所、不要箇所及び昼休み時は消灯する
			②空調温度管理(設定温度遵守)
			③蛍光灯や反射板など照明器具を定期的に清掃する
	②化石燃料量 の削減 ②-1.ガソリン ②-2.軽油	ガソリン 5,159 L(事務所) 8,553 L(現場) 軽油 60,036 L(現場)	①エコドライブ(アイドリングストップ、急発進・急加速及び空ぶかし防止等)を徹底する
			②現場通勤はできるだけ相乗り通勤をする
			③段取り良い前準備で忘れ物などをなくし、折り返し運行の撲滅を推進する
			④重機等の操作はできるだけフルパワー運転をしないようにする(アクセル7割運動等)
			⑤重機類は始業前点検を実施する
		⑥創意工夫で工期短縮を図る	
2・廃 棄物 の 削減	①一般廃棄物 の削減	51.5kg	①資源物を再生利用できるように分別する(最終処分量の削減を目指す)
			②コピーは裏紙使用や両面コピー、縮小コピーに努める
	②建設副産物 の再生率 向上	95%以上	①資材発注時は仕様書を再チェックして、在庫の確認を行い残余材の発生を抑制する
			②廃棄物の処理はできるだけリサイクル業者へ依頼する
用水 量 資 源 削減 使	3. 水資源使用 量の削減	260.1㎥	③資材包装物は業者へ持ち帰りを依頼する。簡易包装のものを優先購入する
			①水道配管からの漏水を定期的に点検する
・自らが施工する土木 建築物の環境性能の向上【環境配慮型施工の推進】	環境活動計画の 順守		②車両や建設機械の洗車は必要最小限にとどめ、できるだけ雨水を利用する
			①環境配慮型の建設機械を使用する(排ガス対策型、低騒音型、エコ操作型等)
			②自主的に騒音・振動・粉塵対策を講じて施工している
			③チェーンソー等の建設機械はできるだけ植物性オイルを使用する。

いろいろな活動を試行してきた結果、次年度も昨年の活動を継続するが、目標達成状況や、社会情勢、及び会社の状況等が変化した場合は適宜見直す。

7.環境関連法規等の遵守状況及び評価結果並びに違反、訴訟等の有無

当社の事業に係る環境関連法規は、Net情報や協会情報等で常に確認しています。
尚、関連法規制の遵守状況確認を実施した結果、違反はありませんでした。
また、関係当局からの指摘、及び地域住民からの訴訟はありませんでした。
現場での遵守状況は、安全パトロール中や安全会議時などで確認しています

当社の事業に関する主な環境関連法規と遵守状況は以下の通りです。

法規名	遵守事項	遵守評価
廃棄物処理法	委託契約の締結、マニフェストの交付	遵守
	回収・照合確認(発行後B2,D票90日E票180日以内) A表の5年間保管	遵守
	産業廃棄物管理票交付等状況報告(6月30日までに知事へ報告)	遵守
	保管場所の掲示板設置	遵守
建設リサイクル法	発注者への書面による計画等説明、完了報告	遵守
	工事着手する日の7日前までに必要事項を都道府県知事に届け出	遵守
	分別解体、再資源化促進、再生資源の利用促進	遵守
フロン排出抑制法	・定格出力7.5kW未満の業務用エアコン等の簡易点検実施 (重機搭載のエアコンを含む)	遵守
再生資源利用省令	・再資源利用計画書・実施書の作成 ・再資源利用促進計画書・実施書の作成	遵守
騒音規制法	・知事へ7日前までに届け出 ・作業敷地境界にて85デシベル以下	該当工事 なし
振動規制法	・知事へ7日前までに届け出 ・作業敷地境界にて75デシベル以下	該当工事 なし
浄化槽法	・年1回の清掃と年3回の保守点検の実施 ・年1回の法定点検の実施	遵守

8.代表者による全体評価と見直しの結果

2010年5月からエコアクション21に取り組み始めて既に14年が経過しましたが、今では全社員が環境活動の必要性を理解し、無駄遣いをしない、整理整頓をする、再利用できるものはできるだけ再利用する等自然に取り組んでいます。ただ、現場の燃料消費量などは、現場の内容や状況によって左右され、活動した結果が数値に現れないことも多くあります。このため現場の活動の結果の見える化を検討しましたが、ひとつとして同じ工事内容は無く、数値以外の評価が難しいと感じています。ただ、この活動は僅かではありますが、地球環境負荷の低減に繋がっていると信じて、これからも、全社員が二酸化炭素排出量の削減に向けて環境負荷の削減に取り組み、基本理念とする『循環型社会』の構築に向けて継続して活動する所存です。